

楽しく自衛隊に親しんで 富士駐屯地記念行事で子供たちに広報



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は7月7日（日）、駿東郡小山町の陸上自衛隊富士学校・富士駐屯地で行われた「開設65周年記念行事」において、広報活動を行った。

静岡地本の広報ブースでは、自衛官就職相談とアンケートを実施し、アンケート回答者には自衛隊特製グッズをプレゼントした。今月から高校新卒者への募集活動が開始されたことから、広報官は自衛隊に興味のある高校生に採用パンフレットを手渡したり、県内で開催される自衛隊イベントを案内して、自衛官という仕事の魅力PRに努めた。

また、併せて迷彩服や制服の試着体験コーナーも開設。来場者は「この迷彩服は自衛官が着ているものと同じですか」「子供用の小さい制服が可愛い」と興味津々な様子で、小雨の降る肌寒い中でも多くの家族連れが立ち寄った。兄弟でお揃いの子供用迷彩服を試着して、ブース横に展示された偵察用バイクと一緒に写真を撮った。二度自衛隊のバイクに乗ってみたかった」とヘルメットを被って凛々しい自衛官になりきる男の子など、自衛隊に楽しく親しむ姿が見られた。

静岡地本は、今後も各地で行われるイベントで広報活動を実施し、自衛隊への親近感の向上に努めていく。

高校生に職業としての自衛官をPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、7月8日（月）、グランシップ静岡（静岡市）で行われた「高校生企業ガイダンス」に参加した。

このイベントは、高校生の仕事に対する理解促進や主体的な職業選択・意識の育成を目的として行われているもので、県内企業等48社が会場内にブースを出展し、県内高校生約730人が来場した。

各企業のブースでは、担当者がそれぞれの事業内容、就職に対する心構えなどについて説明を行っており、来場した高校生たちは、希望する職業や興味のある職業のブースを訪れ、説明に真剣に聞き入っていた。

自衛隊ブースでは、自衛隊の活動や自衛官の仕事の様子を説明し、続いて自衛官になるためのコースを紹介。更に、広報官が自らの入隊の動機や入隊後の生活、災害派遣などの経験を紹介した。高校生は、自衛官の休日の過ごし方や外出といった日常生活がとても気になるようで、「自衛隊の仕事だけでなく、自衛官の生活なども知ることができた」「自衛隊・自衛官選択への不安を解消できた」という声も聞かれた。

静岡地本は、今後も自衛隊の魅力発信するとともに、自衛官をより身近に感じてもらえるよう活動していく。